

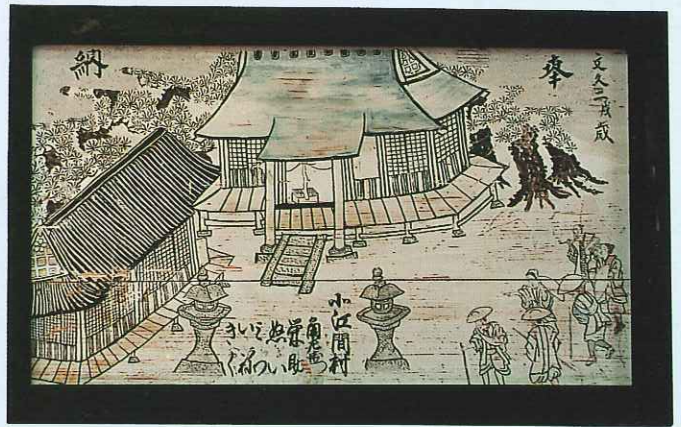
よこど う 庶民の小さな旅 横道巡礼

駿豆霊場めぐりを中心に

平成9年7月20日～8月31日



横道巡礼絵馬 (明治27年) 蓮華寺蔵



巡礼絵馬 (文久2年) 北條寺蔵



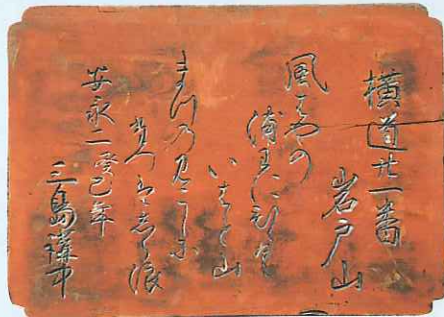
横道巡礼奉納写真 (大正11年) 靈山寺蔵



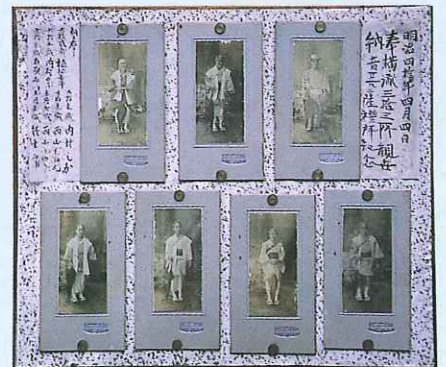
横道お札 大悟庵蔵



横道巡礼絵馬 (明治12年) 徳楽寺蔵



御詠歌奉納額 (安永2年) 龍雲寺蔵



横道巡礼奉納写真 (明治44年) 玄機庵蔵



巡礼供養塔 (寛文11年) 華尊院



横道納経帳 (昭和12年)

益山寺蔵



巡礼供養塔 蓮華寺

すんず よこどう 駿豆両国横道観音霊場

昭和30年代まで、三島の常林寺を起点として清水市の霊山寺までの33の観音霊場を巡る、女性達の巡礼の旅人を見かけました。

この、霊場巡りは「駿河・伊豆両国横道」（駿・豆両国横道、横道）と呼ばれた江戸初期に成立した古い観音信仰の巡礼コースです。

観世音菩薩は33の姿に変わり衆生を救うという観音信仰は、平安時代に「両国三十三観音霊場」が成立し、「巡礼」の功德が広まるとともに民衆化します。中世には「坂東三十三観音霊場」「秩父霊場」が成立。江戸時代に入ると全国各地に霊場が成立し、観音信仰が広がりを持ちます。

伊豆地方では「駿豆両国横道」の他「伊豆横道」「伊豆中道」等の観音霊場が知られています。

「駿豆両国横道」の各霊場は、歴史が古く、弘法大師や行基菩薩と縁のある寺が目立ちます。また真言宗や元真言宗の寺が多く、江戸時代まで幕府の厚い庇護を受けていました。

しかし、明治初年の廃仏毀釈により、廃寺あるいは無住となり衰亡した寺も多く、残された古い堂宇や観音像が長い歴史を語っています。多くの霊場で、巡礼の名残の、江戸期の巡礼供養塔や明治期の奉納巡礼絵馬を見る事ができます。

よこどう 横道巡礼の旅 —— 庶民の小さな旅

駿豆両国横道霊場を巡ったのは、主として北伊豆・東駿豆の女性でした。長い間家事や農作業で働きづめだった女性達の、念願の一生に一度の旅だったのでしょう。

信仰と観光を兼ねた旅とはいっても、険しい山中にある霊場も多く、徒歩で33霊場を回るのに2週間もかかる困難な道のりでした。

巡礼の作法では、白衣にオユズリ（オイヅリのこと、カタ衣とも称する）手甲、脚半、ワラジ姿で、行き交う人ごとに合掌挨拶をします。いつも観音様に守護され同行二人と心得、行動します。札所では観音経・御詠歌を唱え納経し、朱印をいただきます。

昭和31年（1956）の潮音寺（沼津市黄瀬川）の檀信徒の女性10人の横道巡礼記録によれば、バスや汽車を利用していますが、7日間かかっています。また、米と毛布を持参し、寺へ泊まり自炊するという質素な旅でしたが、それでも2622円費しました。出発前の写真を見ると、重い荷を背負いながらも、旅の喜びに婦人達の顔は輝いて見えます。

女性達の駿豆両国横道の巡礼は、生活の近代化とともに昭和30年代以降は衰微し、今ではほとんど見られなくなりました。

じゅんれい 巡礼絵馬・供養塔



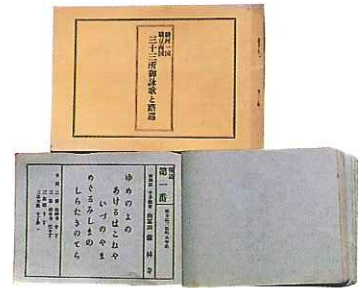
巡礼供養塔（宝暦2年）法華寺

駿豆両国横道観音霊場のいくつかの札所には、巡礼記念の絵馬や写真が奉納されています。また巡礼供養塔が地域の寺院等に数多く残されています。これら絵馬や供養塔は「駿豆両国横道」ばかりでなく、「西国三十三観音霊場」「坂東」「秩父」「四国八十八所」等の巡礼記念のものも見られます。

横道の巡礼供養塔は、古いものは寛文11年（1671）が確認されています。（華尊院一韭山町）江戸時代中期18世紀には多量の巡礼供養塔が建てられ、横道巡礼が盛んだったことが判ります。多くは石塔に「駿豆両国横道順礼供養塔」とか「横道三十三所順礼供養塔」等と彫ら



『御詠歌並順路』（昭和15年）潮音寺蔵



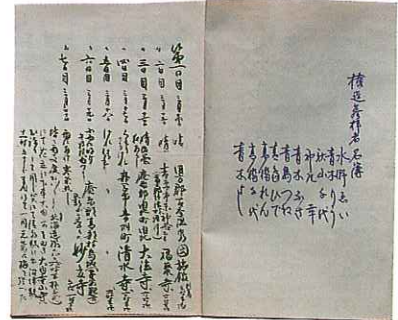
『御詠歌並順路』（昭和34年）長谷寺蔵



横道お札版木 大悟庵蔵



横道巡礼出立風景（昭和31年3月）潮音寺蔵



駿豆両国横道観音霊場巡拝 旅程記録（昭和31年3月）潮音寺蔵

れ、巡礼年月・同行者名が記されました。観音浮彫立像・観音丸彫座像もあります。

一方、現在残っている横道巡礼絵馬では文久2年（1862）奉納が最も古いもの（霊山寺—清水市）で、ほとんどが明治期に奉納されたものです。いずれも白衣の巡礼一行を描いており、多くが年輩の女性です。明治期の絵馬には洋傘をさしたり手にしたものも多く、当時の流行と思われます。明治40年代頃より、次第に絵馬から写真に替わりました。

また注目されるのは、安永2年（1773）三島講中より奉納された木彫の御詠歌額で、現在でも多くの霊場に残されています。

すんず よこどう 駿豆両国横道観音礼所



1. 向富山 常林寺 (曹洞宗) 観音堂本尊 白滝観音

もと白滝観音堂（現在の一番町白滝公園あたり）にあったものが明治の廃仏毀釈で放置され常林寺に納められた。観音堂前には、旧地から移された巡礼供養塔・石燈籠が建つ。毎月18日午後には観音講が催され、市内外の信者が観音経等をあげている。（三島市本町）

白滝観音堂

本尊 白滝観音

夏になると富士山の雪解け水が湧水となって湧き出る白滝公園の中にある。もともとこの地には弘法大師が創草したと伝えられる愛染院（真言宗、廃寺）の堂宇の1つといわれる白滝観音堂があり、白滝観音はその本尊だった。明治に堂宇が荒廃した時、常林寺に本尊が移された。戦後まもなく近隣の芝町（現芝本町）地区の長男が次々倒れ、観音様を粗末にしたためではないかといわれた。そこで公園隅に小さな観音堂を建て、芝町の婦人達が御詠歌を習い、常林寺から白滝観音を迎えようとしたが、結局石塔（供養塔）のみが迎えられた。これは観音堂脇にある。現在の観音像は、芝本町の大工さんが彫ったもの。毎月18日午前には芝本町の婦人達により観音講が行われている。（三島市一番町）



2. 三島山 法華寺 (曹洞宗) 聖観音 (旧竹林寺廃寺 本尊)

法華寺は白鳳時代に建立された大興寺が前身であり、代用国分尼寺でもあった。源頼朝が崇敬し、心経を埋めたという経塚も残る。真言宗であったが後に曹洞宗となる。聖観音は、現在の市役所北側にあった竹林寺（愛染院末、真言宗）の本尊だった。明治には廃寺となり、本尊と供養塔が法華寺に移された。（三島市東本町）

3. 音羽山 清水寺 (真言宗) 本尊 聖観音

初め観音寺として建立され、本尊は聖徳太子作と伝えられる。康平3年（1060）の創建、文録元年（1594）秀山法師により再建された。昭和7年からの横道巡礼の奉納写真が残る。（田方郡函南町間宮）



6. 養伽山 益山寺 (真言宗) 本尊 千手観音

北伊豆から内浦湾へ抜ける山陵にある。弘法大師空海の創建で、千手観音も弘法大師と弟子の自作であったと伝えられる。しかし無住の時代に荒らされ、現在の本尊は後世の作である。参道と境内には「西国・坂道・秩父・横道観音霊場」が並び、この地一カ所で全ての霊場巡りができ、御利益があると尊ばれた。また境内の大カエデと大イチョウは県指定の樹木である。（田方郡修善寺町堀切）

5. 吉原山 玉洞院

(曹洞宗)

本尊 十一面観音



明治43年火災に遭い、焼失したため由緒は判明しない。本尊の十一面観音はカヤの木の一木造。800年～1000年前の作と鑑定されている。4月17日が観音様のお祭りである。境内に巡礼供養塔が残る。（田方郡修善寺町牧之郷）

(田方郡修善寺町牧之郷)

4. 華尊院 本尊 聖観音 (2体)



狩野川の川岸に建つ堂宇は、堤防が切れるたびに、水がついた（浸水した）という。明治の終り頃無住となり現在は道を隔てた東にある宝永山隣光院（曹洞宗）が兼任している。2体の聖観音は秘仏であるが、昭和41年修繕した時の鑑定では200～300年前の仏像という。毎月17日、近所の老人たちにより観音講が行われている。（田方郡韭山町四日町）



7. ^{しげでら}重寺観音堂
(旧大悲庵廃寺)
本尊 千手観音

重寺の集落の中の急坂を登りきった眺望の良い地に建てられている。大悲庵廃寺は国清寺(韭山町)の末、臨濟宗であった。戦国時

代末より重寺秋山氏が中心となり護持していた。堂内には明治以後の絵馬が奉納され、境内に横道巡礼供養塔が多く残る。(沼津市重寺)



8. 巨徳山 北條寺 (臨濟宗)
本尊 聖観音

北條寺の観音はインドから中国に渡り、平安初期に智證大師円珍が招来したもので、鎌倉にあったと伝えられる。北条政子によりここに贈られ、初め観音院と名付けられた。北条時政が深く帰依し、北條寺と改め、寺領を寄進したという。

この他、運慶作の阿弥陀如来像や北条義時夫妻の墓があり、北条氏の足跡を伝える寺である。

なお文化・安政・文久年間の巡礼絵馬が保管されている。(田方郡伊豆長岡町南江間)

9. ^{おしづ}鷲頭山 徳楽寺 (臨濟宗)
本尊 聖観音(伝 行基作)



鷲頭山の山裾に建ち、大平戸ヶ谷地区の5軒の檀家により観音堂が守られている。観音はセンダンの一木造。

毎月17日の観音講に戸ヶ谷の婦人達が集まる。また明

治期の巡礼絵馬が奉納されている。

(沼津市大平戸ヶ谷)

13. 千本山
長谷寺

(時宗)

本尊
十一面観音

長谷寺は旧名初瀬寺、山号も稲久山であった。縁起によると、天長2年(825)弘法大師が当地に寄られた頃、駿河の海中で輝く像を漁網であげ漁師達が信仰していたもので、大師は牧野長者の助力を得て一字を建立し、これを本尊とされた。

また120反の綿布に描かれた十一面観音曼陀羅は、明治期に一運齋国秀が描いたもの。昭和62年に新造された。4月中旬に開帳される。(沼津市千本緑町)



12. 安養山 蓮光寺 (臨濟宗)
本尊 千手観音

もとは末寺であった円通寺(平町)本尊馬頭観音(恵心僧都作)が霊場だったが、廃寺となったため蓮光寺に移された。しかし沼津空襲で焼失、蓮光寺本尊が観音霊場となった。この千手観音は元和年間(江戸時代初期)小諏訪の漁師の網にかかったもので、不思議な靈示により蓮光寺の本尊とされたものである。(沼津市三芳町)



11. 東海山 潮音寺 (臨濟宗)
本尊 亀鶴観音

平安時代、弘法大師がこの地を通られた時感応があり、ここを聖地として聖観音を石に刻んで一字を建立したという。これが観音寺であり、潮音寺の東、黄瀬川河岸にあった。明治12年に廃寺となり潮音寺へ移された。しかし沼津空襲の時、石像も寺と共に全焼した。現在の観音像は戦後の作である。また鎌倉初期の小野の長者の娘亀鶴姫の伝説が伝わる。(沼津市大岡黄瀬川)



10. 泉清山 蓮華寺 (真言宗)
本尊 聖観音

蓮華寺は清水町で最も古い創建の寺といわれる。もとあった聖観音は行基作と伝えられていたが盗難によって失われ、代わりに時の住職が彫った観音像が納められた。

観音堂の前には巡礼供養塔、西国三十三観音像が並ぶ。三島の古刹愛染院(廃寺)の寺宝が伝えられている。(駿東郡清水町堂庭)



14. 玄機庵

(旧雲開山)

(臨濟宗)

本尊 聖観音(行基作)

大中寺末寺。現在東沢田公民館内にあり、檀家の人々により管理されている。昭和41年堂宇の新築のため発掘調査が行われた時、多数の人骨が出土した。戦国時代の近辺の合戦で死亡した人々の供養のため建てられた堂宇と推定されている。両国横道の絵馬・写真が奉納されている。

(沼津市東沢田)

20. 明星山 大悟庵 (曹洞宗)

本尊 十一面観音

星山丘陵に建つ観音堂は「星山観音」と呼ばれている。昔は福興寺(真言宗)と称した。

平安時代、弘仁3年(812)弘法大師が巡錫の折、白い絹に観音像を描いたものを本尊として開創したと伝えられる。

今でも70年ごとに描き改める風習が残り、近年では沼津の画家一運齋国秀が明治42年に描いている。現在寺に残るのは白布140反に写された観音像で、毎年3月18日に開帳される。茅葺きの観音堂は350年前に建てられたものである。

(富士宮市星山)



15. 赤野山 広大寺 (真言宗)

(奥院)本尊 十一面観音(赤野観音)

観音堂は寺から2km程登った愛鷹山の丘陵上にある。古くは地域を統治した阿気大神の社跡であったという。本尊は天正9年(737)3月、行基菩薩作と伝えられる。茅葺きの精巧な観音堂は江戸中期の様式を伝える。寛永14年(1637)に再建されたもので、左甚五郎が日光東照宮からの帰途に、ワラ人形を使い3日3晩で仕上げたという話が残る。山号額は幼少の頃ここに参籠し、出家の誓いをしたという白隠禅師晩年の書。境内に大カヤやナギの巨木がある。広大寺はかつて愛染院(廃寺)の末寺だった。

(観音堂 沼津市柳沢字赤野)



16. 土詠山 大泉寺 (曹洞宗)

本尊 聖観音(湛慶作)

大泉寺は源頼朝の弟、阿野全成の開基で建仁年間の建立。境内に墓が残る。寺域は愛鷹山の山裾に広がり、前は浮島沼で、交通の要衝を押えており、源氏の軍事拠点であったと考えられる。

天正13年、真言宗から曹洞宗となった。両国横道の奉納絵馬・写真が残る。(沼津市井出)



18. 藤沢山 妙善寺 (臨濟宗)

本尊 十一面千手観音

寺伝によれば奈良時代天平年間、聖武天皇の勅願により、行基菩薩が観音像を刻んで納めたという。現在の本尊は室町時代の優品。広目天・多目天の脇侍は慶派の影響を受けている。

この寺は、室町時代、常陸国 小栗判官が鎌倉公方に攻められた時、愛馬鬼鹿毛と妻照手姫とともに隠れ住んだ所で知られている。(富士市原田東滝川)



17. 円通山 福聚院 (曹洞宗)

本尊 准提観音(行基作)

開創は行基菩薩、開基は長円和尚と伝えられる。元禄11年(1698)再興され、曹洞宗となった。境内に西国霊場や横道の巡礼供養塔が建つ。

(富士市増川)





21. 岩戸山 龍雲寺 (臨濟宗)

本尊 聖観音 (弘法大師作)

もとは瑞現山といい、創立は不詳であるが室町時代今川氏の一族氏兼とその子直忠によって再建され、地域有数の名利として知られた。また江戸時代に近くの岩戸山常楽寺(廃寺)と合併し、その山号をとり岩戸山と改号した。常楽寺の本尊が今の聖観音である。裏山頂上に奥の院の岩屋があり観音像が安置されていて「岩屋観音」として知られる。(庵原郡蒲原町)



いた馬頭観音が拾われ祀られている。(庵原郡由比町由比)

23. 瘤山 新国寺

(浄土宗)

本尊 十一面観音

本尊は行基作と伝えられていたが、すり替えられたともいわれる。

古くは由比川沿岸の瘤山にあり、歓喜山深谷寺の境内の観音堂だった。度々の洪水で倒壊し、明治維新で廃寺となった。観音堂のみ山上に移し、旧堂の古材を用いて再建された。境内の石塔は慶長・慶安・明暦等の古いものが残る。この観音に祈願すれば瘤がとれるという信仰もある。代々久保田家が護持している。(庵原郡由比町阿僧)



27. 音羽山 清水寺 (真言宗)

本尊 千手観音 (伝恵心僧都作)

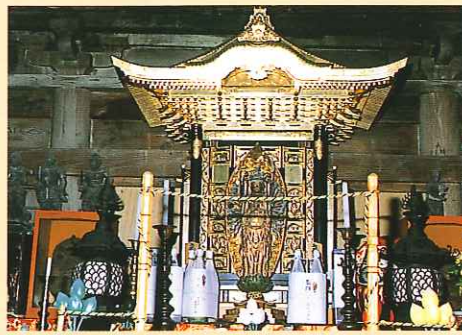
永祿2年(1599)今川氏輝の遺命により創立された。地形が京都清水寺に似ていることから名付けたといわれる。後に徳川家康もしばしば参詣し、念持仏を納め本尊とされたと伝えられる。家康が建立したという観音堂及び観音の厨子は桃山様式で慶長7年(1602)に造られたもの。平成7年に解体修理された。清水寺は駿府浅間神社の別当も勤め、明治の神仏分離の時、その護摩堂を移し、薬師堂としている。(静岡市音羽町)



26. 布袋山 平沢寺 (真言宗)

本尊 千手観音 (平沢観音)

天正10年(1582)に書かれた縁起によると、奈良時代和銅年間(708~715)行基菩薩が白馬に乗って見え、5尺余(約150cm)の地藏菩薩像(本尊)を刻み堂宇を建てたのが始まりという。次いで養老2年(718)、後の聖武天皇の病氣平癒の祈願のため再度駿河国を訪れ直径24mの大クスを伐り7体の観音像を刻み祈願したところ治ったという。1体を平沢寺へ安置し残りも安倍郡の6つの



寺に1体ずつ安置した。これが「安倍七観音」の霊場といわれている。残念ながら鎌倉初期に焼失し、現在の像は後年の作。今川氏・武田氏・徳川氏等が厚く庇護したが明治以後無住の時代が長く続いた。観音堂は急な石段を登った上に建つ。駿河一国の巡礼絵馬が多く残る。(静岡市平沢)

25. 補陀洛山 鉄舟寺 (臨濟宗)

本尊 千手観音 (行基作)

もと久能寺(天台宗)といい、久能山東照宮の地にあった。推古天皇のとき久能忠仁によって開創され、行基菩薩の中興と伝えられる。本尊は「安部七観音」の1つ。駿河を代表する名利であり、鎌倉時代には300余の堂塔が林立し、盛力を誇っていた。しかし、戦国時代、武田信玄・徳川家康がここに城を築いたため寺は現在地に移る。江戸時代は駿府浅間神社の社僧をつとめ観音霊場として栄えたが明治の排仏毀釈により廃寺となる。しかし山岡鉄舟の尽力により明治43年再興され、鉄舟寺と改められた。

観音堂は急坂を登った丘陵に建ち、清水港・三保を一望に見下ろす。(清水市村松妙音寺町)



24. 巖腰山 瑞雲院

(臨濟宗)

本尊 如意輪観音 (伝教大師作)

清見寺の西隣、駿河湾を見下す景勝地に建つ。

寺伝によると、延暦23年(804)伝教大師が東遊の際、この地に錫を留め、37日間一刀三礼して観音を彫刻したという。室町初期、足利尊氏が参籠して戦勝祈願し、願が果たされたので、瑞雲庵として堂宇を再建した。天正11年(1583)清見寺和尚により中興され、瑞雲院と改名し、巖腰山と号した。明治期の巡礼絵馬が多く残る。(清水市興津清見寺町)



28. 大窪山 徳願寺 (曹洞宗)

本尊 千手千眼観音 (行基作)



安倍川西岸徳願寺山の中腹にあり、静岡市街地を望む。本尊は「安倍七観音」の1つ。古くは山頂に建てられた山岳密教の大窪寺であったと推定されている。

戦国時代、今川氏親の生母北川殿(北条早雲の妹)の菩提寺となり、曹洞宗徳願寺となった。江戸時代後期に現在地に移り、本堂・庫裏とも当時の形態を残している。(静岡市向敷地)

29. 瑞祥山 建徳寺 (廃寺)

本尊 千手観音 (伝 行基作)



白鳳年間(7世紀中頃)道昭法師が草創し、養老年間(717~723)行基が中興したという。

平安末期、建徳寺は久能寺とともに駿河の2大寺院であった。足利~徳川の保護を受け、21の塔頭があった。しかし明治初年廃寺となり、跡地には建徳神社が残るのみである。観音像(「安倍七観音」の1つ)や仁王像など建徳寺の多くの仏像は西方の林富寺(廃寺)跡の観音堂へ移され、建徳町内の人々によって守られている。また堂内には駿河一国の巡礼絵馬が多く残されている。(静岡市建徳)



30.

慈悲尾山 増善寺 (曹洞宗)

本尊 千手観音 (行基作)

寺の歴史は古く、白鳳21年(682)法相宗祖道昭法師の草創で慈悲寺(保檀院)と称した。「安倍七観音」の霊場の1つである。室町時代、文明12年(1480)曹洞宗の寺として再興され、今川氏親が大伽藍を建立して、今川家の官寺とした。徳川家康が幼少期人質として駿府にいた時、増善寺をよく訪れ、後に可睡斎(袋井市)を建立する等膳和尚と親交をもった。本堂は寛文11年(1671)の建立である。

(静岡市慈悲尾)

番外

日金山 東光寺

(真言宗)

本尊 延命地藏菩薩 (聖算作)

日金山にはさまざまな伝説が残る。仁徳天皇の代に鏡の導きで松葉仙人が開創したと伝えられる。

後に弘法大師が来た時、その遺徳を偲んで地藏堂を建立したという。源頼朝もここで旗揚げの祈願をしている。本尊は江戸初期に般若院の僧が造立したものである。

江戸時代には日金山の信仰が盛んで、4つの坊を持ち、伊豆・相模・駿河3国からの参詣者でにぎわった。(熱海市伊豆山)



33. 鷲峰山 霊山寺 (真言宗)

本尊 千手観音 (伝 行基作)

大内の集落から急な山道を20分程登ると寺の仁王門(重要文化財)、少し上って鐘楼・本堂にたどり着く。ここから清水市街地を一望できる。

寺伝によれば、奈良時代 天平9年(737)又は天平勝宝元年(749)行基菩薩の開創といわれる。本尊は行基作の「安倍七観音」の1つと伝えられるが、室町時代の作と推定されている。

仁王門は室町時代永正11年(1514)の茅葺きの建物で、本堂や庫裡も260年前の建築である。



本尊の宮殿を中心に28部衆・風神・雷神像が並ぶ。横道霊場の最後の札所のため、横道関係の奉納絵馬・写真が多い。静岡市の清水寺が兼住する。(清水市大内)

32. 祥雲山 慶寿寺

(真言宗)

本尊 聖観音

慶寿寺は南北朝の頃、今川二代範氏の菩提寺として創建され、長く観音霊場として栄えた。本堂裏には県の天然記念物のシダレザクラ(樹齢800年)がある。住職は静岡市清水寺に居り、管理は地元



の人々が行っている。

駿豆両国観音霊場だった長谷寺(初瀬寺)は、元は静岡市長谷静岡高校の南にあった。明治の廃仏毀釈の時廃寺となり、慶寿寺に移された。

(島田市大草)

31. 高福山 法明寺 (曹洞宗)

本尊 千手観音 (行基作)

行基菩薩が「安倍七観音」を刻んだ大クスが当地にあった。高さ約50m直径約24mという。伝承では養老7年(723)行基菩薩の開創、といわれる。古くは天台宗と伝えられ一時廃絶していたが、江戸初期、増善寺住職によって中興された。(静岡市足久保奥組)



駿豆両国横道三十三所観音霊場

三島市内霊場

(柴田寿彦氏作成より)

No.	名称	所在地 (管理者)	電話番号
1	常林寺	三島市8-4	0559-75-3393
(1)	しらたき観音	三島市一番町1 白滝公園内	
2	法華寺	三島市東本町1-15-48	0559-75-4994
3	清水寺	函南町間宮298-1	0559-78-2903
4	華尊院 (隣光院)	韭山町四日町 (韭山町四日町1093)	(0559-49-1860)
5	玉洞院	修善寺町牧之郷679	0558-72-2362
6	益山寺	修善寺町堀切760	0558-72-1864
7	重寺観音堂	沼津市重寺 (管理*自治会長 沼津市内浦重寺10-66 木村晴夫)	(0559-43-2605)
8	北條寺	伊豆長岡町南江間862-1	0559-48-1399
9	徳楽寺	沼津市大平多比口 (*世話人 沼津市大平1316 渡辺 裕)	(0559-31-3389)
10	蓮華寺	清水町堂庭132	0559-75-6052
11	潮音寺	沼津市大岡黄瀬川434	0559-63-3968
12	蓮光寺	沼津市三芳1-23	0559-62-1095
13	長谷寺	沼津市千本緑町1-5	0559-63-1831
14	玄機庵	沼津市東沢田<東沢田公民館内> (管理*自治会長 沼津市東沢田291 田中 進)	(0559-21-0218)
15	广大寺	沼津市柳沢702<赤野観音…柳沢字赤野544>	0559-66-6056
16	大泉寺	沼津市井出744	0559-66-2016
17	福聚院	富士市増川599	0545-34-0435
18	妙善寺	富士市原田東滝川1344	0545-34-0729
19	清林寺 (福泉寺)	富士市天間川坂742<手無観音、清流寺> (富士市天間802)	(0545-71-3362)
20	大悟庵	富士宮市星山9	0544-26-2995
21	龍雲寺	庵原郡蒲原町2-12-10	0543-85-2991
22	大法寺	庵原郡由比町由比676	0543-75-2804
23	新国寺	庵原郡由比町阿僧 (管理 由比町北田185-5 久保田明)	(0543-75-5410)
24	瑞雲院	清水市興津清見寺町420	0543-69-0970
25	鉄舟寺	清水市村松妙音寺町2188	0543-34-1203
26	平沢寺	静岡市平沢50<平沢観音>	054-261-6312
27	清水寺	静岡市音羽町27-8	054-246-9333
28	徳願寺	静岡市向敷地689	054-259-7304
29	建徳寺	静岡市建徳 (管理*町内会長 静岡市建徳204 加藤光成)	(054-278-8388)
30	増善寺	静岡市慈悲尾302	054-278-6333
31	法明寺	静岡市足久保奥組1043	054-296-0284
32	慶寿寺	島田市大草767 (*世話人 島田市大草626-1 永井亨)	(0547-35-3670)
33	霊山寺	清水市大内597 (*世話人 清水市大内774 大林良弘)	(0543-46-8553)
番外	東光寺	熱海市伊豆山968	0557-82-4528

() 内は管理者連絡先 *は平成9年の役員



寺名	所在地	駿豆両国	伊豆中道	伊豆88所	東海88所	駿豆88所	百地藏
白滝観音	水上	1	1				
心経寺	〃				73		
西福寺	〃						97
法華寺 (竹林寺)	二日町	2	4		76		99
田福寺	〃						98
蓮馨寺	広小路		3	19	71		96
長円寺	芝		2		72		
国分寺 (愛染院) (大徳院)	広小路			旧所 (20)		67	66
林光寺	茅町				74		
薬師院	大宮町				70		
光安寺	日出町				75		100
天神山堂	川原ヶ谷		5				
龍沢寺	沢地			21		65	
宗福院	塚原			22			
宗徳院	松本			18		71	
蔵六寺	御園		7				
観音堂	青木		6				
真明寺	中島				77		
法覚寺	長伏					72	
泉伏寺	〃			17			

福

参考文献

- 『巡礼の民俗』(民俗民芸双書) 武田 明 岩崎美術 (1969)
- 『観音信仰』(搞選書) 速水 侑 塙書房 (1970)
- 『観音霊場巡禮道』(一) 柴田寿彦
- 『駿河三十三所観音巡り』黒澤 脩 静岡郷土出版社 (1989)
- 『伊豆横道三十三カ所めぐり』平幡良雄編 満願寺事業部 (1980)

出品協力者・協力寺院 (敬称略)

- 三島市 常林寺 法華寺 白滝観音堂 西福寺 光安寺
言成地藏堂 手無地藏堂 沼上城山
- 函南町 清水寺 白井はるの
- 伊豆長岡町 北條寺
- 修善寺町 益山寺
- 清水町 蓮華寺
- 沼津市 徳楽寺 潮音寺 長谷寺 玄機庵 广大寺
大泉寺 重寺観音堂
- 富士市 清林寺 福泉寺
- 富士宮市 大悟庵
- 蒲原町 龍雲寺
- 清水市 霊山寺
- 静岡市 清水寺
- 島田市 慶寿寺

企画展 庶民の小さな旅 横道巡礼
—駿豆霊場めぐりを中心に—
編集・発行 三島市郷土資料館
〒411 三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL (0559) 71-8228
FAX (0559) 81-3730
発行日 平成9年7月20日